

本気でやれる自分の使命に、多くの人が気づけば お金や政治に振りまわされない社会になる

本シリーズによく登場する「社会起業大学」は、大学生から企業定年者まで幅広い人が入学し、約4カ月、密度の濃い講義、プレゼン、学生同士のディスカッション、一日弟子入りなど独特のカリキュラムを通して、自分の課題を磨き具

体化していく。これからの日本を変えていくだろう（社会起業）とは何なのか。今一度見つめるため、社会起業大学理事長の田中勇一氏を訪ねた。

感謝を追求した先に見える

社会的課題を解決することを本業とした起業が社会起業だ。勘違いしている人も多いが、社会事業は減私奉公ではない。たとえば、毎日街のゴミ拾いをするのももちろん社会の役に立つことだが、感謝されて自己満足で終わるかもしれない。少なくとも自分で食べて行くことはできない。でも、お店のロゴが入ったTシャツを着てやれば広告になり、事業として成り立つかもしれない。

お金を払ってでもやってもらいたい、感謝を追求した先にあるのが社会起業なのだ。田中氏は言う。

銀行マンが見た社会の問題

大手銀行に勤めていた田中氏が、金融ビジネスを通して世の中を見ておかしと感じたのは、結局はお金に勝てない現代社会の仕組みだった。それを変えたいと政治家を志望したこともあったが、政

治にまわりつく臭いが性分にあわず他の手法を模索した。行きついたのは、世の中の一人ひとりの考える力と気づきを引き出すことだった。

2つの銀行の立ち上げで、数千人の採用に関与。独立してからのキャリアカウンセリングも合わせると、1万を超える人の、人生に向き合う話しを聞いてきた田中氏。その経験上わかったのは、自分を信じて走れる人が伸びるということ

だった。それならば、信じて走るに値する、それぞれの使命に気づかせてあげればいいのだと。

世界一の社会起業家集団に

欧米社会とのビジネスでは、利益のためには手段を選ばず、人をだましたり裏切ったりする企業やビジネスマンを、田中氏も嫌というほど見てきた。日本の商売は本来、社会のお役に立つことが先にあり、利益はその証しであるという考え方だった。20世紀末からグローバル化の下、社会より投資家の利益を優先する企業が増えてきたのは残念だが、田中氏は諦めていない。

「もし一人ひとりが自分の役割に気づき、精神的にも経済的にも自立した個人になれば、世の中は変わります。組織や政府なんていらなくなります」

社会起業大学では、起業にあたっての設立登記、人材確保、資金調達など、事業に必要な様々な支援もする。講師、OB、協力企業の人脈やアドバイスも大きな財産になる。卒業後も多くの人が交流を続け、「世界一の社会起業家集団」に向かって気づきの輪は広がっている。

シリーズ

社会起業家

社会起業大学 理事長

田中勇一

氏に聴く



田中氏は自分自身が起業したリソウル株式会社の社長でもある。個々の価値や可能性を最大限活かすためのキャリアカウンセリングや、そういった人を活かした組織づくりをサポートする会社だ。そこに、留学事業からの転身を模索する中村大作氏がカウンセリングに訪れた。意気投合し、議論を重ねる中で具体化したのが「社会起業大学」という社会事業。2010年4月、中村氏を学長として設立された。

■お問合せ先
ホームページ：<http://socialvalue.jp>
E-mail：info@socialvalue.jp
電話：03-6380-8444